



JAC 北九だより NO.10

社 団 法 人 日 本 山 岳 会 北 九 州 支 部
Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発 行：社団法人日本山岳会北九州支部
事務局：北九州市若松区和田町11-13
大庭 常生(副支部長兼務) 方
宅 093-771-4538
昼 093-541-0259
発行人：秦 野 一 彦
編集人：大庭常生・伊藤久次郎

日本山岳会 北九州支部

第 4 回 通 常 総 会 開 催 の お 知 ら せ

会員の皆様、今年も早く春が訪れようとしています。日本山岳会北九州支部では、下記の通り通常総会を開催致します。本年も会員の皆様にお集まりいただき、次年度の活動を進めたいと思います。ベテラン会員によるシンポジウムや懇親会も予定しております。多数のご参加をお待ちします。

記

- 1 日 時 平成15年4月19日(土) 受付 午後1時30分から
総会 午後2時から 懇親会 午後4時30分から
- 2 場 所 北九州市八幡東区大谷1丁目2-4 大谷会館
- 3 費 用 懇親会費 1人 4000円

∞∞∞ 詳細については、後日、案内をお送りいたします。∞∞∞

日本山岳会からのお知らせ

日本山岳会 未踏峰カングリ・シャル シニア登山隊 支援トレッキングのご案内

エベレスト街道をトレッキングしつつ、ホテル・エベレスト・ビューからの景観と、ヒマラヤの山々の憧憬を堪能することと、登山隊員への激励の旅を楽しみたいと思います。

ご高齢の方のご参加を考慮し、無理のない行程を組みました。皆様のご参加をお待ちしております。

旅行期間：2003年4月19日(土)～

5月11日(日) 23日間

旅行代金：430,000円

(6名以上の場合の一人様代金)

出発地：成田空港・名古屋空港・関西空港
福岡空港(追加料金12,000円)

ネパールトレッキングについて

トレッキングには、ガイド、コック、ポーターが同行します。宿泊はテントとなります。マット、寝袋など全てご用意しております。装備は、軽登山靴、雨具、防寒着、水筒など通常の山の装備をご用意下さい。アイゼン、ピッケルなどは必要ありません。

【お問い合わせ・お申込み】

連絡先：ヒマラヤ観光開発

担当：井本重喜 03-3574-9292

：日本山岳会

担当：中川秀利 03-3990-3222

主 催：日本山岳会

取り扱い旅行社：ヒマラヤ観光開発株式会社

上高地ウエストン祭参加募集 (20人)

北九州支部計画

日程 5/31日～6月3日(3泊4日)

行程 5/31(土) 小倉(新幹線)⇒名古屋(貸切バス)⇒上高地 安曇村村営アルペンホテル泊、前夜祭に参加

6/1(日) 日本山岳会の山岳研修所訪問、10:00～11:30 ウエストン祭に参加。

上高地→横尾山荘(泊)

6/2(月) 横尾山荘→蝶ガ岳登山→蝶ガ岳ヒュッテ(泊)

6/3(火) 蝶ガ岳ヒュッテ→横尾山荘→上高地(貸切バス)⇒名古屋(新幹線)⇒小倉(解散)

費用 交通費、宿泊費(3泊)含め

1人66,000円前後の予定。

宿泊地の状況 安曇村役場によれば、当日は土曜日でハイカーベッドは残り少ない由。取りあえず、残りの空き部屋(20人分)を仮予約済み。

申込みは、担当の関口興洋まで

〒800-53 北九州市門司区新原町12-27

FAX (093-3826436)又はハガキで。

締切 3月31日まで

(但し、宿が20人までしか確保出来ないの、20人になり次第締め切ります)

九州5支部新年の集い カンリガルポ山群のスライド上映などで新年の幕開け

平成14年度「九州地区5支部懇談会」及び平成15年「新年の集い」が1月25日(土)、福岡市天神の平和楼で開催された。地元福岡支部から深田泰三支部長以下35人、北九州支部から秦野支部長以下12人(末尾へ一覽)、東九州支部から佐藤浩幸支部長代理以下6人、熊本支部から工藤文昭支部長など合計54人が参加した。宮崎支部は都合により欠席。

会は福岡支部副島勝人事務局長の司会進行で始まり、各支部長の挨拶と支部の紹介が行われた。

各支部の挨拶内容

○ 福岡支部

福岡支部は、2年間にわたり、カンリガルポ山群の調査トレッキングをしたが、今年も更に調査を続けたい。

○ 熊本支部

会員38人の支部である。来年は全国支部懇談会を担当することになっている。人数が少ないが何とかやり遂げたいと思っている。そうなれば熊本阿蘇高岳を会場と考えている。

○ 東九州支部

活動は大分市内が中心である。あと5年すれば支部も45年になる。その時は5支部懇談会を引き受けたい。

○ 北九州支部

当支部は発足してからまだ年が浅い支部であるが、現在正会員74人、支部会員89人合計163人である。一昨年は尾瀬に33人、昨年末は国際山岳年記念登山として九重へ32人、今月は犬が岳へ冬山訓練で25人と活動もだんだん活発化しつつある。

各支部の紹介に続いて、福岡支部顧問の松本いくお徭夫先生解説に

より、カンリガルポ山群のスライドが上映されたあと、カンリガルポ山群探査計画について次のような説明があった。

カンリガルポ山群 探査計画について

「カンリガルポ山群は、チベットの南東地域、ヤルツァンボーの大屈曲部と横断山脈との間に、ほぼ東西に280kmにわたって展開する山群である。最高峰若尼ー Ruoni ー(6,610m)はじめ、多数の6,000m峰が連なり、すべてが未踏峰であり、ごく限られた範囲のみが踏査された山域である。まさに未だ『探検の時代』にあると言える地域である。」

日本山岳会福岡支部は、2001年及び2002年に、主として拉古氷河周辺の調査を行

い、山名(地元民の呼び名)はじめ貴重な知見を蓄積してきた。2003年はさらに踏査の範囲を拡げ、その成果を将来行われるであろう本格的登山の資とするために計画するものである。探査・調査期間は、2003年10月から11月にかけての21日間を。トレッキングは、同期間中の16日間を予定している。人員は15人程度で、他の支部員の参加も歓迎する。費用は60数万円位の予定である。」

以上の前半行事が終わったあとは、各支部入り乱れての懇親会がはじまり、時の経つのも忘れて杯を酌み交わしながら山の話に花がさいていた。(伊藤Q)

北九州支部参加者(敬称略)
堤 甚五郎、小野一丸、秦野一彦、蔵富幸夫、日向祥剛、原広美、兼光 功、伊藤久次郎、西村信子、関口興洋、藤田 傳、亀田謙一 計12人

堤先輩をお迎えして

大山冬山報告会開く サロンルーム

「岳友と楽しくだべろう」と毎月第4水曜日の夕方、小倉区魚町の「コール天」で開催しているサロンルームに、今回(2月26日)、初めて日本山岳会北九州支部の大先輩である堤甚五郎氏(門司区、91歳、会員番号4162)をお迎えした。同氏は、もうすぐ日本山岳会入会50年目を迎え永年会員になれる予定。伯耆大山冬山合宿参加者8人と支部会員やビジター(一般)ら総勢21人が集まり、山の経験豊富な堤先輩の体験談などを拝聴しながら、伯耆大山冬山合宿報告会を開いた。酒ビールも飲み放題とあって、初参加者は「次回もサロンルームに参加したい」、又「来年も伯耆大山に行きたい」などの声や山の話なども弾み、盛大

なサロンルームとなった。参加者(敬称略)本会員～堤甚五郎、秦野一彦、大庭常生、日向祥剛、山本 守、原 広美、大楠益弘、兼光 功、板倉健一、伊藤久次郎、西村信子、浦田和夫、馬場基介、福光慶二、関口興洋。支部会員～横山洋子、高城季美子、藤垣三知子
入会予定者～三木靖子、梶原誠子、神代かず子

※尚、北九州支部では、発足以来、小倉北区魚町の「コール天」において、毎月第4水曜日の午後6時からサロンルームを開いています。費用は3000円位。参加される場合は、担当の大楠氏(090-3196-8939)に連絡を。

国際山岳年記念登山

2002年の登り納めに32人参加 久住冬山登山

前年に続いて今年（平成14年）も九重冬山初心者訓練山行が12月22日～23日の2日間、32人の参加で行われた。

今回は、昨年の倍の参加申し込みがあり、北九方面からマイクロバスを貸し切った山行で、国際山岳年を飾るのにふさわしい盛大な山行となった。ただ肝心の冬山は雪が全く無く、ポカポカ陽気の春山登山となった。おかげで、久住山に登頂後、若手の希望でコースを一部変更し、白口谷を下ることができた。宿泊地の法華院温泉山荘では個室2階の部屋を全部貸切る状態であった。

夕食後のミーティングでは6畳二間続きの大部屋に全員集まり、国際山岳年についての話や意見交換が行われた。続いて、日向氏が背負子で担ぎ上げたケーキやパイ、又シャンペン、ブランディ

ー、ウイスキーなどの飲み物で盛り上がった。

2日目は、仕事などで下山する4人パーティと分かれ、本隊全員は予定通り大船山に登頂。坊ガつるに下山後、昼食を摂り、雨ガ池、指山散策路経由で下山、長者原の九重高原ホテルで汗を流し、全員無事家路についた。（伊藤Q）

参加者名（敬称略）日向祥剛、原広美、大楠益弘、伊藤久次郎、西村俊二、西村信子、山崎和子、浜松礼子、浦田和夫、馬場基介、三宅清和、高島拓生、末吉史忠、関口興洋、村上強、工藤勇治、矢山功、井上英俊、久門美恵子、高城季美子、西村一利、中澤恵子、中岡邦男、中山幸弘、室津健次、小石貴代美、三木靖子、弘中留三、大石そなえ、渡博美、正本明子、森畑紀男、計32人。



国際山岳年とは

山は形も大きさも様々である。赤道から極地まですべての大陸に、高さも違い、様々な気象、生態系のなかに存在している。何千年にもわたり、貴重な資源の源泉として、水、エネルギー・生物の多様性を育んできた。また、文化とレクリエーションの中心としての役割も担っている。

しかし、山岳地域では急激なグローバル化、都市化、大規模観光開発が進み、山岳地域社会の生活や資源が脅威にさらされている。

山岳地域は、世界規模で資源枯渇、地域経済の衰退及び環境劣化の問題に直面している。国連では、山岳地域の生態系維持の重要性

に関する認識を深めるため、2002年を国際山岳年と認定した。国連食糧農業機関が中心となり、政府、非政府機関、他の国連機関と連携を進めている。

国際山岳年は、1992年のリオデジャネイロ地球サミットに始まった長い道のりの重要な一歩であり、山岳問題を、気候変動、熱帯森林資源の劣化、砂漠化などと同様に貴重な課題と位置付けた。

リオサミット以降、山岳問題に関して、様々な取り組みや行動が開始された。国際山岳年は、一時的なイベントというよりは、2002年以降の持続的で確固たる行動のための踏み台としての役割を担うものである。（日本山岳会ホームページより）

山行記 九重国際山岳年記念登山に参加して

すべてはじめての山行！

嘉穂郡桂川町 北九 203 井上 英俊

今回はじめて山岳会北九州支部企画山行に参加させていただきました。参加するまえは、冬山は初心者なのでみなさんの足を引っばるのではないかと危惧していましたが、冬山ではなく春山のような山行でほっとしました。(冬山の訓練にはならなかったのは残念ですが、)

久住山・大船山とも、山頂にたつのはじめてで、又法華院温泉に入るのもはじめて、というはじめてばかりのことで、とても楽しい山行でした。

初日の12月22日(日)、朝7時20分、山田市のサルビアパークから高島さんと工藤君と一緒にバスに乗り込みました。

長者原に着いたのが午前9時半、バスからおりてみんなでストレッチをして登りはじめました。そこからすがもり越、北千里、久住別れまできて、バッグ(ザック)を置いて久住山に登頂。そこから久住分かれまでもどってきて昼食になりました。風が少しあったけど、日差しもありそこそこ暖かいなかでの昼食でした。

下りは、当初予定を変更して白口谷を降りることになりました。白口谷降りには17時前には法華院

温泉山荘につき、各自部屋に入りました。

はじめて法華院温泉山荘に泊まり、山の中にこんな温泉付きの山荘があっていいのだろうか、と思いながらあったかい温泉に入り、食事となりました。その後、部屋に集まり、国際山岳年についての話があり、その後は宴会となりました。宴会では、みなさんの楽しい話をたくさん聞くことができ、たのしいひとときをすごすことができました。

2日目の23日(月)は大船山です。午前8時すぎに法華院温泉山荘をでて、大船山に登りました。

ふもとから中腹までは林の中で、枝にひっかかりしなごらのぼっていきました。山頂は少々寒かったのですが、北の方をみると由布岳や英彦山がみえ良い眺めでした。降りてきてから坊がつるで昼食。13時半ごろ下山開始。雨ガ池、指山自然観察路を経て長者原についたのは16時ころでした。

長者原で解散し、みなさんそれぞれ車にのりました。私は、バス組なので、バスにのりこみました。帰りのバスの中では当然のように反省会(!?)が行われ、いろいろな話に花がさき、とても楽しかったです。またご一緒させていただきたいと思います。みなさん、どうもありがとうございました。

(Eメール原稿)



ウエストン祭は「晴天」 その日の祖母山頂は「吹雪」

門司区 JAC13642 末吉 史忠

当会に入会する以前から、祖母の麓五カ所では毎年11月3日にウエストン祭が開催されていることは、知ってはいたもののこれまでなかなか参加することがなかった。

いずれは「参加を」と思って

いた矢先、当会に入会させていただいたお陰で、ある役員の方と酒杯を酌み交わす機会に恵まれ、山話の中で「ウエストン祭」の話をお尋ねしたところ、可能な限り毎年参加しているとのこと、地元の方々を中心にもう

17年も続けて開催され、JAC宮崎支部の方々も参画され、五カ所地区あげての催事の一つになっているとのことだった。

さっそくおねだりし、次回ご案内していただく約束を取り付けた。「ヤッター！」と思い、その日その時を心待ちに日々を過ごした。

前夜祭が開催される地元JAの集荷場に着いたのは、11月にはめずらしいみぞれの降り注



ウエストン碑レプリカの前で JAC 今村常任理事を囲んで

ぐ冷たい夕暮れだった。会場となる集荷場では、地元の方がそれぞれに参加者を迎える準備に大わらわの様子が目に写っていた。

その中でも一番興味いやいや嗜好をそそられた「ヤマメ」の塩焼きを準備しているところへ行き、お手伝いを申し出た。串刺した20センチを越える「ヤマメ」の塩焼きをご指導いただきながらお手伝いすることになった。炭火の側だったので、暖を取りながら贅沢な香りにつつまれ、一生懸命商品作りに勢を出した。とりとめの無い話をする中で、ひよんなことからご夫婦で参加されていた仲間が「今日は私達の『結婚記念日』なの」と話された。この話に地元の人が「それはめでたい、結婚記念日をお祝いしよう」と言うことになり、あつあつの、しかもその中でも焼き上がった大ぶりの「ヤマメ」を振る舞われたため、地酒ショウチュウを買い求め感激の中にお祝いを“だし”に舌鼓を打った。いやー、その高貴な香りところりした脂ののったヤマメの美味しかったこと・・・・。

いよいよ前夜祭も始まり、笑顔のうつくしい大谷宮崎支部長の歓迎の出迎えと接待を受け開会となった。神事に続き、地元の小学生の舞う御神楽に青年諸氏の奉納太鼓にと、数々の郷土芸能が披露され時の経つのも忘れるほどだった。仲間を見回すと、その左手にはカッポ酒がしっかりと握り締められていた。

フィナーレは、大きな木々を積み重ねたみぞれの中の大神火で、炎に照らされた老若男女の参加者全員がいい顔をしていたのがとても印象的だった。

このあと大谷支部長の計らいで新築になった近くの公民館に案内され、交流会という名の二次会となった。自己紹介にはじまり、それぞれに山情報の交換などに花が咲き、お開きは宮崎支部会員の弾くオルガンで、幾度となく山歌の大合唱となった。

さて、祭典当日は昨日のみぞれ空もあがり、青空が時折見えるまざまざの日和となった。残念ながら目の先に望める山々そして祖母山は、雲の中だった。

式典は青い空と時折わく雲を

背景に、ユニオンジャックと日章旗のはばたくなか、役場をはじめ地元の各関係者、五カ所小学生による祖母山によせる作文の朗読、そして式典の終了は、参加者全員によるエーデルワイスの大合唱で第18回ウエストン祭は幕を閉じた。感動の連続だった。

その後、祖母山に登頂したが快晴率が高いと言われる文化の日なのに、頂上は吹雪だった。

今回おねだりが適えられ大変満足だった。それに加えて、地元の人々、同好の趣の人との出会いと別れ、どちらも笑顔をやさしくことなく触れ合ったことなど印象深い式典参加だった。

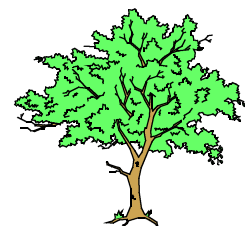
またJAC本部の今村常務理事の「ウエストン祭は、日本数カ所で行われているが、商業主義でなく、地元にしかりと根付き手作りでしかも地元の催事なのがいい」と言われたことに同感だった。

2日間にわたり大谷宮崎支部長には大変お世話になったが、時として会員が一つになり支部長を中心に行動する姿勢に眩い思いがした。

※ウエストン祭参加者(敬称略)

日向祥剛	JAC11427
原 広美	” 11990
大楠益弘	” 13465
西村信子	” 13520
浜松礼子	” 13523
高島拓生	” 13541
末吉史忠	” 13642
西村俊二	北九 349
三木靖子	”
梶原誠子	”

計 10 人



平成14年度年次晩餐会に出席して チョ・オユー中国女子登山隊とも交流

門司区 JAC13643 関口 興洋



チョ・オユー日中女子合同登山隊の中国側メンバーと。後中央は田部井淳子さん

JACに入会したら一度は年次晩餐会への出席をお勧めしますよという先輩の意見に従い、昨年12月7日、新高輪プリンスホテルで開催された晩餐会に初めて出席しましたのでご報告します。

晩餐会の会場である国際館パミール「北辰」の入口には、入場時刻が近づくと大勢の人が集まり、それぞれお目当てのテーブルを狙って虎視眈々。

開場が告げられると、皆さん一斉にラッシュしたのにびっくり。

北九州支部の参加者は予めステージに近い「英彦山」のテーブルに着席することを打ち合わせていたが、到着したときには既に先客ありで全員座れないこと判明。やむなく板倉さんと二人でステージから一番遠い「九重山」に着席。暫くすると福岡市の児玉俊子さん（JAC9999）から学友のいる最前列の「伊吹山」に空席があるからご案内しますとのことで、今度は特等席に着席できた。壮大な「北辰」の大宴会場にセットされたテーブルの数がなんと54。出席者

は500名を超えるとのこと。

因みに九州の名がついたテーブルはつぎの通り。英彦岳（山でなく岳となっている）、祖母山、由布岳、宮の浦岳、高千穂峰、開聞岳、九重山の七山で阿蘇山の名前がないのが不思議。

各テーブルにはテーブルマスターが配置され、着席した人々のお世話をする仕組みになっている。

「伊吹山」のテーブルマスターは中村 保さんである。中村さんは海外担当理事としてご活躍されており、最近ではとくに東チベットの探査に注力されておられる由（山岳V○197/2002、112～156頁に2001年、2002年の詳細な探査報告が掲載

されている）。

定刻18時に開会。大塚会長のご挨拶に始まり各種のセレモニーが進行する。やがて来賓の紹介があり、ネパール大使やカザフスタンの山岳会長、さらにチョ・オユー日中女子合同登山隊の中国側メンバーが出席されていることが分かる。

新入会員の紹介ということで、当日の参加者がステージに上がり代表が挨拶を行う。その後、いよいよ鏡開きとなる。村木潤次郎名誉会員の発声で乾杯後、開宴。

宴会のメニューが面白い。和洋中華の合作である。海老のチリソース、牛肉のステーキと続き、その後で握り寿司やおろしそばが出てくるのにこれまたびっくり。

北から順に支部紹介が行われる場面では板倉さんと一緒に、堤さんや支部長が陣取る「英彦岳」のテーブルへ駆け付け合流する。宴もたけなわとなり、高島さんや藤田さんは中国の女子登山隊メンバーの席まで遠征し記念写真をとるなど懇親を深めていた。

20時40分閉会。

北九州支部からの出席者は次の通り（敬称略）

吉村 健児	(3173)
堤 甚五郎	(4162)
秦野 一彦	(4325)
大楠 益弘	(13465)
兼光 功	(13467)
板倉 健一	(13471)
高島 拓生	(13541)
関口 興洋	(13643)
藤田 傳	(13722)
以上9名	

山岳会へお礼の投稿

企救自然歩道藤松コースの整備について

戸の上山日曜早朝登山会 櫻木 幹 億

戸の上山から足立山に至る企救自然歩道は、アップダウンが多くかなり厳しいコースである。

そのほぼ中間点から門司の藤松に下るコースが藤松コースで、下りてきたところに加藤清

正を祀る清正公堂があり、さらに藤松通りまで下ると大里高校の正門にいたる。

このコースは昭和50年代までは大里高校の生徒が体育によく利用していたように思います。

大里高校→桃山登山口→自然歩道→藤松コース→大里高校と一周して普通に歩いて約3時間、高校生の体力強化には手頃なコースでした。私もときどきこのコースを利用して戸の上山や足立山に登っていましたが、次第に足が遠退いて随分長い間ご無沙汰していました。

利用する人も少なくなり道が荒れているような話も聞きました。そして一昨年だったか、このコースを下っていた3人グループが道に迷い、一晩山中で夜を明かした後自然歩道に戻って何とか無事下山したということを知ったのです。道に迷うほど荒れてしまったのかなと淋しい思いをしたものです。

このような時、山岳会の大楠さんから道を整備してみませんかと話があったのです。

それは、戸の上山山小屋の補修資材を運び上げるのに私達(戸の上山日曜早朝登山会)だけでは手が足りず、山岳会の方に応援をいただいた時のことです。

資材を上げ終わってから山小屋の中で四方山の話をしているなかで出た話でした。早速“やりましょうや”と話がまとまって(平成13年)11月18日の日曜日に行くことになりました。

当日は朝8時に大里高校前に集合、山岳会の方が5人に私の方の登山会から2人の計7人だったと思います。どんなにか荒れていて、かなりハードな作業になるのではないかと考えていましたが、私が考えていた程ひどくはなく、草払い、枝打ち、赤テープ表示と作業は順調に進み、10時半頃には根根筋の自

然歩道まで上がったと思いません。

このコースに入るのは本当に久しぶりで昔を思い出しながら作業したのですが、谷川を右に行ったり左に行ったり、また川原の中を歩くところも2、3箇所あって結構変化に富んだ良いコースだなあ・・・と感じました。企救山系では『深い感じのする谷川コース』といったところでしょうか。そして7合目あたりには、登山道から少し外れたところに急斜面の岩場があって細かい滝がかかっており、なかなかの風情でした。

9合目からはバラスを敷いたように砂礫が続いて歩きにくい所もありましたが、赤テープの案内も密に着きましたし迷う心配は全くありません。これからは安心して利用できます。

私も昔に帰って大いに利用したいと考えております。さらにまた多くの人に利用してもらえようPRしたいと思います。今後、山岳会と戸の上登山会が協力して、毎年定期的にこのコ

ースを整備しようという申し合わせもできました。

戸の上登山会も山小屋や登山道の整備、ゴミ拾いなどメンバーがお互い協力して行っております。誰でも楽しく安心して山に登れるよう環境づくりに務めたいと思います。

この機会に一言お礼申し上げます。

山小屋の修理に際しましては、ご協力有難うございました。おかげさまで立派に出来上がり面目一新しました。

山岳会の方も機会があれば遠慮なくご利用下さい。

本当に有難うございました。

山行者名 (敬称略)

櫻木 幹億 (戸の上山早朝登山会)
大楠 益弘 (日本山岳会)
末吉 史忠 (同)
関口 興洋 (同)
板倉 健一 (同)
舛木 隆 (同)
浦田 和夫 (同)
立野卯三男 (同)
林 洋司 (ビジター)

企救自然歩道登山道整備に着手

関門グループ 門司区 JAC13465 大楠 益弘

このたび、関門グループでは、門司区役所からの協力要請を受けて、門司区内での企救登山道の整備に協力することになった。この1、2年、戸の上山の藤松コースの整備を2回程ボランティアとして行ったことが評価されたのだろうか。2月9日(日)午前8時から午後5時まで14kmの登山道を整備した。参加メンバーは、門司区役所公園係、緑化土木業者、戸の上早朝登山会、風師早朝登山会、それ

に日本山岳会北九州支部関門グループ5名であった。登山道の崩壊部分のチェック、案内図・道標の点検、設置個所の要望などを行った。今後は市の予算とにらみ合わせ具体的に推し進めていく予定である。このところ、風師山、戸の上山が九州百名山に掲げられるようになってから、遠方からのハイカーが増えてきており、山を安全かつ快適に登ってもらうために丁度良いタイミングと考えている。

JAC13465 大楠益弘
スポーツ安全保険の有効期間について

保険期間は各年4月1日午前0時から翌年3月31日午後12時です。途中入会でも期限は3月31日までとなります。今掛けている会員で継続する場合は、3月20日までに¥1500円(100円アップしました)を北九州支部の振替口座に振り込んで下さい。ただし入金が遅くなった場合は、4月1日からその日を入れて2、3日間程度は無保険状態となりますのでご了承下さい。

スポーツ保険の加入を

JAC北九だより第9号(12月)でお知らせしましたが、山行中の死亡障害事故については、当山岳会本部、支部ともにその補償はしておりません。あくまでも自己責任であり、そのためには保険を掛けて頂く必要があります。会

員は何らかの保険に必ず入って下さい。未加入の場合は、山行をあきらめて頂くこともありますので、ご了承下さい。比較的安い保険として福岡県体育協会のスポーツ保険があります。内容・死亡2000万円、後遺障害3000万円、入院4000円、通院1500円は、掛金1人年額1500円。振込先日本山岳会北九州支部、口

座番号01790-3-102242、保険期間は4月から翌年3月までです。3月20日まで振り込むか4月総会のときに申し込んで下さい。但し新入会員の途中加入は、2週間くらいかかります。なお、この保険は、北九州支部管理下の行事に参加中と往復中の事故に限ります。又、高度な登攀はこの保険は適用されません。

事務局からのお知らせ

お待たせ致しましたが、やっと名簿を発行することが出来ました。十分注意したつもりですが、住所その他ご確認下さい。もし間違いがあれば事務局もしくは兼光(会計)までご通知下さい。また今後、転居あるいは住居表示の変更などの場合もご連絡をお願いします。

- (注1) 正会員(13722) 藤田 傳さんの郵便番号は3月24日(月)までは〒806-0078です。3月24日以降が名簿記載の番号となります。
- (注2) 支部会員(北九217) 宝村喜惟さん 〒825-0004 田川市桐ヶ丘9組 TEL 0947-42-4018 は、3月末で退会との申し入れがありましたので敢えて名簿に記載していません。

この名簿編集にあたって、会費未納によりかなりの会員を除籍といたしました。平成15年度の会費をお願いする時節も近づいております。会費納入にご協力をお願い致します。 会計 JAC13467 兼光 功 (TEL 093-661-3451)

本部会員推薦基準について

支部会員として1年間在籍したあと、本人の希望があれば山行実績などを勘案して本部に推薦いたします。面接は特に行いません。

4月の山行 山口県最高峰

じゃくちさん
寂地山～冠山 縦走
 1337m 1339m

期 日 平成15年4月29日(火・祭日)
 集 合 JR門司駅前と下関駅前
 午前6時30分 午前7時00分
 交 通 マイクロバス予定(22人限定)
 コース 松の木峠(広島県境)→冠山

→寂地山→寂地峡
 リーダー 原 広美 ほか
 申込先 〒752-0945
 下関市長府豊浦町6-31
 原 広美
 TEL・FAX 0832-45-5490
 申込み方法 ハガキ又はFAXにて
締 切 平成15年3月15日(土)
 (22人になりましたので締め切りました)

◎ 5月からの山行計画については、次号(11号)でお知らせします。

編集後記

◆今回は、会員の皆さんから沢山の原稿がありまして、とうとう、半分近く、次号回しとさせていただきます。大変申しわけありません。これも、新役員体制になっ

て、当支部がやっと、山の会に相応しい活動が展開されるようになった証しだと思います。とくに、支部会員の活動が目立ちます。これは、支部の将来に明るい希望を開かせていただけるものと思います。これからも、皆さんからの原稿をお待ち致します。(大庭)

◆福智・牛斬の縦走に備えて、1週間前(3/2)、久し振りに赤池町上野から福智に登ったところ、登山口に温泉と旅館が出来ていました。「あがの温泉白糸の湯」です。下山後の一風呂にいかがですか。参考まで。(伊藤Q)